

仕事もしたい! 結婚もしたい! 子育てもしたい!

特集

女子大生が考える

未来のライフスタイルって?

これからの社会は女性の活躍が重要であり、女性が活躍することによって社会が活性化されるとも言われています。そのような社会にこれから羽ばたこうとしている女子大生に集まっていただき、男女平等参画についてどのように考えているのか対談を行いました。対談では、今までの経験やこれからのライフスタイルについての考えを通して、男女平等参画の未来と問題点が見えてきました。

自己紹介



加藤 由起さん

東京家政大学
家政学部4年

現在、家庭科教員を
めざし勉強中です。



黒川 祐紀子さん

東京家政大学
家政学部4年

大学の授業でジェン
ダーについてのカル
タを作成中です。



小林 千夏さん

大東文化大学大学院
法学研究科1年

子育て支援について
の研究をしています。



堀内 祥子さん

武蔵大学
社会学部4年

卒業論文のテーマは
「家族をめぐる価値観」
です。

男女の差別を感じたことは?

【司会】 最初に男女の差別についてお話を伺いたいと思います。どのようなときに男女平等や男女差別を感じましたか?

堀内: 私の親は共働きで、父はサラリーマン、母は教師です。土日休みが普通である父に比べ、土曜出勤や早朝出勤があり帰宅時間も遅い母の方が大変そうでした。共働きなのに、母の方が家事の負担が多いので「どうしてだろう?」と疑問に思ったことがあり、卒業論文のテーマに選びました。

黒川: 私の親も共働きで、両親とも公務員です。帰宅する時間帯はほぼ同じなのに、母の方に家事の負担があるなど、子どもの時から思っていました。少し不公平なのではないかなと感じることはありました。

小林: 私の家も同じで、父は公務員、母はパートの共働き家庭です。ほとんどの家事が母の担当で、忙しい時でも手伝わしてもらえない、そういうところに不平等を感じました。また、私は1年前まで学部生でしたので、就職活動をしていました。受けた会社では、転勤がない一般職と転勤がある総合職に分かれていて、「男女関係なく総合職を受けてもいいですよ」と言われたのですが、合格者を見ると、総合職はほとんどが男性でした。
加藤: 私の家の場合は、共働きで、仕事が終わる時間がほぼ同じくらいでした。

食事は母が作るのですが、片付けや洗濯物をたたんだりするのは父がやっています。また、85歳になる祖父も朝4時に起きて、私たちの洗濯物を干してくれたりするので、私は不平等は感じませんでした。

男女の格差をどう思う?..

【司会】 資料1と2(P3)をご覧ください。男性と比較して女性は給与と年金に格差がありますが、このような現状をみなさんはどのように考えますか?

加藤: 男性の働いている時間が長いので、女性は家事や育児の負担が多くなってしまうと思います。そのため、正社員で働くことが難しく、パートやアルバイトで働くしかないため、給与格差があるのではないかと感じました。

小林: パートだと所得控除の問題があり、働く時間を抑えてしまうこともあると思います。他の原因の一つとして考えられるのは、女性が働きながら子育てできる環境が整っておらず、男性に比べて短時間の勤務になってしまっていることです。一部の民間企業だと企業内に保育所がある場合もあって、仕事が終わって子どもとすぐ会うことができ、仕事の効率化にもつながっています。自治体だけではなく、企業による子育て支援の取組みも進んでいけばいいと思います。

黒川: 大学で作成した「男女平等を考える教育カルタ」で「みるみる昇格同期の